

被災地の医療活動にも
お薬手帳が役立ちました。



医療チームの診察がスムーズに

東日本大震災では、多くの方が避難をする際に必要な薬を失い、体の不調や健康不安につながるケースが見られました。そこで救護所の薬剤師は、これまで飲んでいた薬の情報や薬の名前等を記載し「お薬手帳」を作成しました。これにより被災地の限られた環境で、医療チームによる効率的な治療ができるようになったのです。

お薬手帳でより安全な薬の使用へ

お薬手帳によって、患者さんは処方薬を自己管理して正しく服用でき、別の避難所に移動した際も受診の継続がスムーズになりました。その上、薬の重複や飲み合わせの確認、同じ薬による副作用の防止などにも役立ちます。また、今回避難された方の中には、予めお薬手帳の情報を携帯電話のカメラに保存していた方もいたといえます。薬への意識向上にもつながるため、私たちはさらなる普及に努めています。



- ◎医療機関にかかる時にはお薬手帳を必ず持って行きましょう
- ◎一般用医薬品(大衆薬)・健康食品の使用も記録しておきましょう
- ◎お薬手帳は一冊にまとめ、いつも携帯するか、いつも同じ場所に保管しましょう